



思川だより



令和4年2月22日 第79号

盛立本格化目前！堤体材料採取中！！

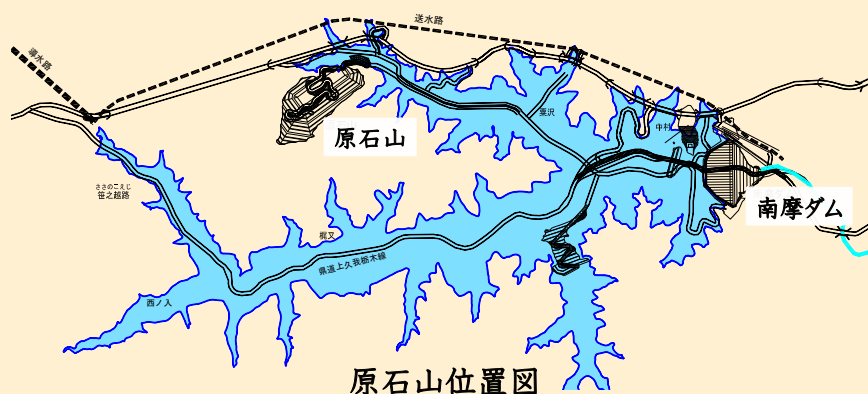
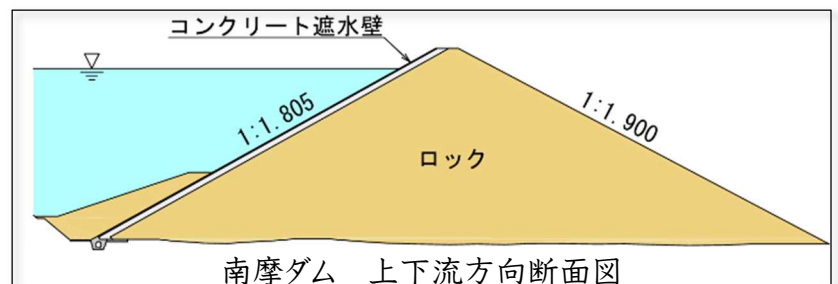
工事の状況は当建設所HPからも
ご覧いただけます。



ダムの堤体のうち、ロックゾーンには、原石山から採取した玄武岩などの硬い岩石材料を盛り立てます。今号では、岩石の品質や堤体材料としての適否をどのように判定しているのかについて紹介します！

原石山では、まず地表部分の表土を取り除きます。そして、その下に現れる岩石が「ダムの堤体材料として予定していた岩種であるか」「大きさはどうか」「硬さは問題ないか」を、現場における目視観察やハンマー打撃など「監督職員の定性的評価(感覚)」によって判定します。「見た目やハンマー打撃では人によって差が生まれてしまうのでは…」という心配をされるかもしれませんが、それら岩石材料についてはJIS規格に基づく室内試験を所定の頻度で行い、ダム堤体材料としての適切さを確認しています。つまり、材料の判定は、現場での即時的な判定を人が経験に基づく感覚で行い、併行して試験数値で品質の裏付けをきちんと取って、適切であることを確認しながら進んでいきます。

このような流れで判定する岩石材料を用いて、これから本格的なロックゾーンの盛立を開始します。
さらにご注目ください！



＜ダム堤体の盛立＞

現在、南摩ダムサイトでは基礎掘削が完了し、ダム堤体の「盛立」を実施しています。岩石材料を撒き出し・転圧して、ダム堤体の主体となるロックゾーンを築造するものです。南摩ダムで採用しているコンクリート表面遮水壁型ロックフィルダム(CFRD)では、遮水壁を支えるロックゾーンの沈下を極力小さくすることが重要です。南摩ダムの堤体盛立では、近代的施工方法(薄層転圧工法:堤体材料を薄層に撒き出し、大型重機を用いて転圧する工法)を採用しています。国内最大級の振動ローラ(18トン)を用いることや、試験施工により適切な転圧回数を決定するなど、沈下量を小さくするための取り組みを実施しています。なお、南摩ダムは近代的施工方法を用いたCFRDの本格的なダムとしては、国内初のダムとなります。



ブルドーザによる薄層撒き出し



振動ローラによる薄層転圧

思川散策

＜思わず行きたくなる思川＞を発見する「思川散策」
小山市飯塚の琵琶塚古墳をピックアップ



栃木県内最大級の前方後円墳

びわづか 琵琶塚古墳 まりしてんづか 摩利支天塚古墳

今回は小山市飯塚、思川と姿川の合流点近くにある琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳に行ってきました。2つの古墳は、墳長が約120mと非常に大きいことが特徴で、栃木県内では最大級の前方後円墳です。

琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳は、5世紀後半から6世紀前半にかけて築造されたと推定されています。2つの古墳がある一帯では100基以上の古墳が確認されており、「飯塚古墳群」と呼ばれています。水陸しもつけ めのくにの交通の要衝であるこの地において、下毛野国を代表する首長や有力者たちが葬られていると考えられています。

琵琶塚古墳は、遠くから一見すると小高い丘くらいにししか見えませんが、実際に墳丘を登ると辺りの田園風景を一望でき、そのスケールの大きさを実感すること

ができます。

2つの古墳の周囲から多くの円筒埴輪が見ついていることから、古墳内に石室(石造りの埋葬施設)がある可能性が高いと考えられていますが、現段階ではまだ石室は見つかっていないとのこと。

1500年前の人々がつくった墳丘の上で景色を眺めながら、謎に包まれた太古の文明に思い巡らせていると、歴史のロマンを感じることができました。

平成30年にオープンした、「国史跡 摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳資料館」では、この2つの古墳から出土した埋蔵品を展示しています。

(※資料館の開館情報は小山市HP等をご確認下さい。)

栃木・小山・下野の境界に位置するこの地域には、古墳群だけでなく、寺院や史跡・それらに関する資料館が数多くあります。ぜひ歴史散策に出かけてみてはいかがでしょうか。



琵琶塚古墳 全景



摩利支天社



『第21回生態系保全委員会』を開催しました



当建設所では、「思川開発事業生態系保全委員会」を設置し、学識者・専門家7名の方々から指導・助言等をいただきながら環境保全に取り組んでいます。今年度は、去る12月20日に委員会を開催し、工事の進捗状況を踏まえた環境保全策等について、ご審議いただきました。今後も本委員会でもいただいた指導・助言等を活かしつつ、適切な環境保全に努めていきたいと考えています。委員会の資料や議事要旨につきましては、当建設所HPに掲示しています。



下野かるたより

栃木県内の地元かるたを用いて、様々な歴史・文物を紹介するこのコーナー。
引き続き、『下野かるた』(栃木県文化協会発行)からの紹介です。

く ひきしぼる 与一の弓

県の東北部を支配した豪族那須氏。那須与一は高館城(大田原市)城主の那須資隆の十一子として生まれました。「平家物語」では、屋島の戦いのおり、波間にゆれ動く小舟にかかげた扇の的を見事に射落としたという、非常に有名な逸話が残されています。



編集後記

立春を過ぎ、日が延びたなあと感じています。肌寒い日が続きますが、春はすぐそこまで近づいてきています。

堤体盛立の本格化が迫り、今年も工事現場では日々新しい顔を見せてくれると思います。

寒さなどが落ち着いた頃に、体調には十分配慮して頂いた上で、是非展望広場へ足を運んでみて下さい。

お知らせ

▼見学会の実施や工事状況等の詳細については、お電話またはHPをご覧ください！

(※見学会については、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休止しています。)

▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています！お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい！

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所
〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2
Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211
<https://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/>

思川開発

検索

